

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 最優秀賞
(国土交通大臣賞)

「 広島土砂災害から十年 」

岡山県 岡山県立岡山大安寺中等教育学校 3年 佐藤 元就^{きとう もとなり}

「あのつらい思いを子や孫たち、そしてすべての人々に二度と経験してほしくない。またもし災害が起きても犠牲者が一人も出てほしくない。次世代にいのちをつなぐために・・・あの災害を語り継ぎたい 防災・減災の想いをつなぎたい・・・」

被災者の振り絞る言葉、強い想い。これは、今年8月に訪れた広島市豪雨災害伝承館に掲げてあったコンセプトだ。10年前に、この地で77名もの尊い命が失われたのか。想像するだけでも恐ろしく、胸が締めつけられるような思いだった。

今年5月、家族でNHKの『明日をまもるナビ 広島土砂災害 10年 命をまもる わがまち防災』という番組を観た。ああこれがあのよく耳にしていた広島土砂災害か。こんなに甚大な災害だったのかと衝撃を受け、土砂災害から命を守るために何ができるのかを改めて考えるきっかけを得た。我が家では、以前から日頃の会話の中で、『広島土砂災害』という話題がでていた。その度に、母は、「ニュースで見たあのすさまじい光景が忘れられない。行方不明の家族の安否が何日も分からず立ちつくし救出作業を見守るご両親の姿。もしあれが我が身だったらと思うと、胸が張り裂けそうだった。」と話す。私は、幼い頃から『災害は、他人事ではなく自分事』と言われ続けて育った。なぜなら、私の住んでいる地区では、過去に2か所で大きな土砂災害が発生した場所があるからだ。それぞれの箇所ですと2名と3名合計5名の死者がでている。そのうちの1箇所は、まさに我が家の近所だ。そのがけ崩れで、息子さんを亡くされた方が、「狐につままれたような出来事だった。あの時のことは、思い出したくない。今でも、ニュースで、土砂災害の様子が映し出されると見ていられない。でも周りの方に助けられた。」と話されていた。土砂災害は、一瞬で自分の命や大切な人の命を奪い、人生を変えてしまう恐ろしい災害なのだと実感した。

私は小学3年時に、西日本豪雨を経験した。幸いなことに、我が家は被害がなかったが、私の住む学区は、大きな浸水被害を受けた。私は、これを学びや気づきの機会にしようと夏休みに科学研究を行った。父に協力してもらい、安全に気を付けながら、浸水直後の町を父と一緒に歩いて回った。メモを取りながら、たくさん写真を撮って、家に戻った。氾濫し、木々が多数引っかかった水門。浸水したスーパーマーケット。窓まで浸かっている車。靴が浮いている友人の家。あの光景は、今でも忘れられない。模造紙に、きれいにまとめて整理し、夏休みの科学研究として学校に提出した。担任の先生は、地域の災害状況の貴重な資料になると大変褒めて下さった。私は、そのような経験を経て、自然災害に常に高い関心を寄せている。だから、NHKの番組を見て、ぜひ自分の目で見て、聴いて、学び、体験したいと思い、家族に提案し、広島市豪雨災害伝承館へ訪れることになったのだ。

10年前の平成26年8月、広島市を豪雨が襲い160か所以上で土石流やがけ崩れが発生し77人が犠牲になった。広島市豪雨災害伝承館は、広島土砂災害の被災地である広島市安佐南区八木にある。土砂災害の脅威を伝えるCG映像や被災当時の住民のリアルな心情や様子を伝えるパネル、被害の全容、専門家の先生方が私たちに伝えたいメッセージ等の展示があった。私たち家族は、実際

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 最優秀賞
(国土交通大臣賞)

に被災された施設のスタッフの方に案内して頂くことができた。興味深かった点は、展示スペースより学習研修スペースの方が広がったことだ。私たちに防災・減災の正しい知識や技術を学習してほしいと考えられているからだそうだ。実際に、頻繁に防災・減災教室が開かれ、外では、かまどベンチで炊き出し訓練ができるような設備が整えられていた。災害時は避難施設として活用されるという地域住民の想いのつまった素晴らしい施設だった。ぜひすべての人に訪れてほしいと心から思った。その後、近くに完成した砂防堰堤も見てきた。広域避難道路も完成間近で、公助も着実に進んでいると感じた。

ただ、私たちができることは、自助と共助。改めて地域のハザードマップを見て住んでいる場所の災害リスクを確認し、私の住む岡山県ではスマホで土砂災害を可視化できるARサイト『M^ミI^エE^タT^ロA^ウR^ウO^ウU』が開発されたので、活用し備えに役立てたい。そして、いざという時には、過去の経験にとらわれず状況を判断し、空振りになってもいいから隣近所や遠くに住む祖父母にも声をかけ、私から率先して避難したい。地域のつながりを大切に日頃から挨拶をしたり、町内会の行事に参加して、地域の人たちとコミュニケーションを取り、地域で助け合える関係でありたい。